

# 岩屋緑地に親しむ会 会報

令和6(2024)年4月1日発行 第91号

編集・発行  
岩屋緑地に親しむ会  
広報・連絡委員会

## 初めての屋内開催、自前の原木を使って 「第21回きのこの菌打ち体験」開催

令和6年2月25日(日)「岩屋緑地に親しむ会」のイベント第21回「きのこの菌打ち体験」が岩屋緑地休憩所で開催された。朝から寒く一時小雨が降つたりする中、参加した市民は39家族、68名。使った原木は68本。スタッフは会員17名、市役所から2名、「どんぐりの森を守る会」から2名。また団体会員の㈱アーレスティからも6名が参加された。



会員らは8時に集合。ミーティングで参加者の受付から解散までの流れを説明。その後あらかじめ決めた役割分担に従い準備に入った。玄関の軒下に受付を設営。休憩所の床にブルーシートを敷き詰め土足で上がれるようにする。奥の納戸から保管していた原木を手渡してウッドデッキにA、B、C組の所要本数を並べ木口に番号を打つ。ブルーシート上のA、B、Cグループの位置にそれぞれ菌打ちで使う固定板、ドリル、ハンマー、種



菌、ゲージなどを置き、感染対策の消毒液なども用意した。玄関と勝手口の外にはシイタケの発生した原木数本を見本として並べた。

8時30分頃、早く来た人から受付を

始める。名前とグループの確認、会費を納め資料の入った封筒を貰う。原木抽選の木札を引きその番号を封筒に書いてもらい会場へ。会場に入ったら会員に封筒を見せ、作業する場所を教えて貰い、封筒の番号と同じ番号の原木を取って貰う。原木には太いのや細いのが色々あり公平を期すための抽選だ。

いよいよ作業開始。会員の指導で原木を固定板の上に置く。原木にはあらかじめチョークで印が付けられている。会員がドリルを持って説明、穴あけ作業をして見せる。いざ自分でドリ

ルを持つと急に不安になり怖気づくお年寄りや、小さな子供にやらせようとするお母さんなど色々。会員の丁寧な指導で少しずつ慣れてきて印の所に穴が開いて行く。次第に作業が早くなりリズムに乗ったように穴が開いた。漏れが無いかを確認したら次の作業へ。

次は駒打ち作業。シイタケの菌が付いた駒を手に取り、先の細い方を穴にさす。縦1列を差したらハンマーで叩いて打ち込む。順に回しながら打

ち次々に打って行く、この作業は簡単なので幼児にも出来、その姿をママが盛んにスマホで撮っていた。打ち終わったら原木を抱えて奥の勝手口から外へ出る。ここには見本の栽培シイタケが並べられ会員から丁寧に育て方の説明を受けた。今回は初めての屋内開催で混雑が心配されたが、空いている所へ移って貰うことなどで調整され順調に作業が進んだ。そのため第二グループ、第三グループの開始時間が順に早まり全員が終わったのが11時を少し過ぎた頃だった。

会場が休憩所内と言うことで雨の心配はなく、寒さも防ぐことが出来た。また狭い範囲だったので原木の運搬距離が短



く参加者も会員も大助かりだった。

【写真上：賑わう菌打ち体験の会場、写真左：ドリルで穴あけ、写真右上：駒菌を打つ親子連れ、写真右下：育て方の説明を聞く家族】